旧音別町の神社

戸田　恭司*

旧音別町の神社について、「音別町史」（2016）には廃された神社も含めて14社に関する記載があり、このうち、これまでに現地確認ができた神社５社について現状を紹介する。各社の由来・変遷については「音別町史」によった。その中で、霧里（むり）神社については現地で確認するものがなかったことから、「音別町史」の記載によった。

殖民区画地が設定されて1898（明治31）年以降、旧音別町各地域では全国から移住する人々が続いた。大正時代までの間に神社の創祀が集中しているが、見知らぬ土地で暮らしていく上で、彼らは故郷の神社などから分霊を勧請して神社を建て、心のよりどころとしていったと思われる。

音別神社

創　祀：音別橋西側の小高い丘の上に鎮座。1906（明治39）年４月に福島県出身者が中心となって、相馬太田神社（南相馬市）から分霊を勧請奉祀。

祭　神：天照御大神・豊受大神・天之御中主大神

概　要：1923（大正12）年に無格社、郷社を経て1932（昭和７）年に村社となる。
鳥居及び社殿のほか、境内には手水舎･社務所･記念碑・稲荷社等がある。稲荷社の由来は不明であるが、奉納されている狐像の台座には「昭和四年旧九月十日建之　中村氏」と刻まれている。像には部分的に欠損が生じている

記念碑：１基あり。正面には「鳥獣魂碑」、背面には「平成十年九月吉日　音別猟友会」と刻まれている。

音別神社社殿

茶安別神社

創　祀：1915（大正４）年、茶安別地区を中心に入植した人々によって建立。

祭　神：天照大神・豊受大神

概　要：社殿のほか、境内には手水舎・記念碑がある。同神社を含む区域は「音別町憩いの森」（1984年に森開き）として整備されている。春は花見、夏はキャンプ施設の利用と、レクリエーションエリアとなっている。

記念碑：社殿の後方に、太平洋戦争戦没者に対して建立されたという慰霊塔がある。碑には
前面：慰霊塔
背面：（判読不明瞭）九月之建　氏子一同（判読不明瞭）
とある。一方、社殿に向かって10数メートルほど左手前に置かれてある石には「氏子一同　昭和三十三年」「石工　根本力蔵」と刻まれており、慰霊塔の背面に「根本」と判読できた箇所もあることから、1958（昭和33）年に根本力蔵が製作に関わったと推測される。
なお、大正年間に本流地区に移住した者の中に福島県出身とされる根本力蔵という名が見えるが、同人かどうかは不明である。

尺別八幡宮

創　祀：尺別地区に鎮座。1902（明治35）年、富山県礪波郡出身者が主となって建立。

祭　神：男山八幡宮から勧請

概　要：1928（昭和 ３）年、境内に相馬妙見を遷座して、尺別相馬神社とし、社殿の向かって左隣りに鎮座。また、現在ある手水鉢は1957（昭和32）年９月に奉納されている。社殿には比較的新しい扁額が掲げられていたが、今後は建物自体の老朽化が進むと思われる。

八坂神社

創　祀：直別地区に鎮座。1909（明治42）年建立

祭　神：詳細は不明

概　要：鳥居・社殿のほか、鳥居からまっすぐに続く参道とは離れた所に、1937（昭和12）年に奉納された石燈籠が建つ。

霧里神社

創　祀：霧里地区に鎮座。1909（明治42）年建立。

祭　神：大山津見神

概　要：神社の名称や由来を知ることができるものが現地では皆無で、現状は社殿のみであり、外観からして数十年経過していると推測される。また、参道にある木製の階段も年数を経て老朽化している。

中心市街地から離れた酪農中心の地域では、離農等による人々の移動が神社の維持に影響を与えている。今後も可能な限り、地域の暮らしの足跡を記録化していきたい。

※旧音別町は2004（平成17）年10月に釧路市と合併。

引用参考文献：

音別町史編さん委員会. 2006. 音別町史　P1595.音別町

＊釧路市立博物館